

若年性関節リウマチの全国実態調査

第2報 二次調査について

鹿児島大学 小児科 寺 脇 保
 銚 之 原 昌

今年度は、昨年度の一次調査し、患児が1人以上いた病院へ二次調査を依頼した。一次調査及び二次調査で解答のあった病院は表1の如くであった。

I. 二次調査方法

一次調査で得られた211施設に表2、表3(裏)の用紙を患児1人につき1校宛送り、回答を求めた。その結果101施設(47.9%)より解答が得られ、275名の患児のリストが集った。

II. 結果

調査用紙の項目を追って主なものを述べる。275名の内訳は、男児115名(41.2%)女児160名(58.2%)で、年齢は1才~22才に及んでいた。発病年齢は、図1の如く1~6才に多かった。

家族歴では、慢性関節リウマチのあるもの15例(5.5%)、リウマチ熱5例(1.8%)、SLE1例(0.4%)であった。

既往歴で先行感染のあるもの41例(14.9%)で、感冒など上気道感染症が23例(8.4%)で溶連菌感染症5例(1.8%)であった。また外傷の既往のあるもの7例(2.5%)であった。

初発症状は、表4の如く、発熱、関節痛が多かった。

初診時の関節外症状は、表5、診断確定時は、表6、最終診察時は、表7の如くであった。発熱、発疹、朝のこわばりなどの頻度が高かった。

関節症状としては、罹患関節の数を示したのが表8であり、そのうちの単関節炎の部位の頻度を示したものが

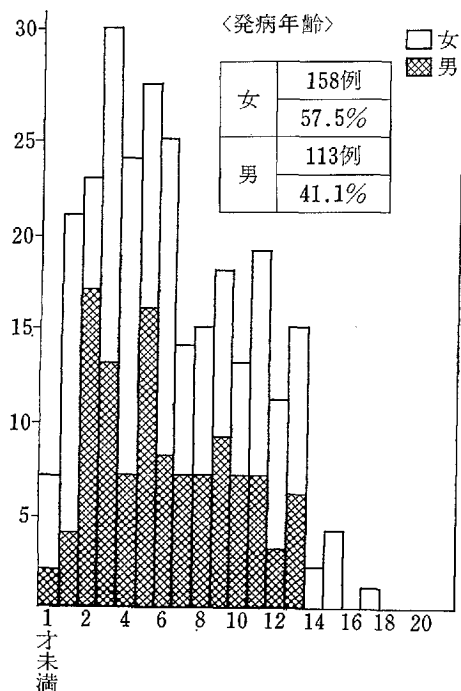


図1

表1 JRA 全国実態調査

対 象	昭和52年1月1日より12月31日まで診療された患児	
第一次調査	アンケートを出した病院 (厚生省より) 1,363	
	解答のあった病院	517(38.0%)
	患児が1人以上いた病院	211(40.8%)
	患児が全くいなかった病院	306(59.2%)
JRA 患児数		
	男 195名	計 474名
	女 279名	
SSA 患児数		
	男 24名	計 49名
	女 25名	
		合計 523名
第二次調査	アンケートを出した病院 211	
	解答のあった病院	101(47.7%)
患児数		
	男 115名	計 275名
	女 160名	

表 2 若年性関節リウマチ (J R A) 調査用紙

厚生省 J R A 調査研究班

1. 診療機関名: _____
2. 所在地: 〒 _____
3. 記載医師名: _____
4. 記載日: 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日
5. 患者氏名: _____ 男 _____ 女 _____
6. 生年月日: 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日
7. 保護者氏名: _____
8. 住所: 〒 _____
9. 家族歴: 膠原病の有無, 有の場合病名及び患者からみた続柄 _____
10. 既往歴: 先行感染の有無 (病名 _____), 外傷の有無 (病名 _____), その他 (_____)
11. 発病年月日: 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (才 _____ 月)
12. 初発症状 (発病1週間までに出現した症状で該当するものを○で囲んで下さい。)

発熱, 関節痛, 関節腫脹, 関節発赤, 心外膜炎, 心筋炎, 虹彩炎, 発疹, 朝のこわばり, (その他 _____)
13. 臨床症状 (該当するものを○で囲んで下さい。)
 - a. 初診時 (昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日)

発熱, 発疹, 虹彩炎, 心外膜炎, 心筋炎, 朝のこわばり, 筋萎縮, 皮下結節, 腱鞘炎, リンパ節腫大, 肝腫大, 脾腫大, 胸膜炎, 腹膜炎, 易疲労性, 食欲不振 _____ その他 (_____)
 - b. 診断確定時 (昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日)

発熱, 発疹, 虹彩炎, 心外膜炎, 心筋炎, 朝のこわばり, 筋萎縮, 皮下結節, 腱鞘炎, リンパ節腫大, 肝腫大, 脾腫大, 胸膜炎, 腹膜炎, 易疲労性, 食欲不振 _____ その他 (_____)
 - c. 現症または最終診察時 (昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日)

発熱, 発疹, 虹彩炎, 心外膜炎, 心筋炎, 朝のこわばり, 筋萎縮, 皮下結節, 腱鞘炎, リンパ節腫大, 肝腫大, 脾腫大, 胸膜炎, 腹膜炎, 易疲労性, 食欲不振 _____ その他 (_____)
14. 関節症状 (炎症所見 (疼痛, 腫脹, 発赤, 熱感, 運動障害) の1項のみ○, 2項以上◎で囲み, 拘縮, 強直あるものは, =で消して下さい。 () 内には持続期間を記入下さい。 例: 肘: ⑤ 右 (1年3月), DIP: 左 I ② ③ IV (2年)
 - a. 初診時

側頭頸: 左 右 (_____), 頸椎 (_____), 肩: 左 右 (_____), 肘: 左 右 (_____), 手: 左 右 (_____)

指 MCP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), _____ 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), PIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

股: 左 右 (_____), 膝: 左 右 (_____), 足: 左 右 (_____)

趾 MTP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), _____ 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), PIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)
 - b. 診断確定時

側頭頸: 左 右 (_____), 頸椎 (_____), 肩: 左 右 (_____), 肘: 左 右 (_____), 手: 左 右 (_____)

指 MCP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), _____ 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), PIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

股: 左 右 (_____), 膝: 左 右 (_____), 足: 左 右 (_____)

趾 MTP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), _____ 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), PIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)
 - c. 現症または最終診察時

側頭頸: 左 右 (_____), 頸椎 (_____), 肩: 左 右 (_____), 肘: 左 右 (_____), 手: 左 右 (_____)

指 MCP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), _____ 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), PIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

股: 左 右 (_____), 膝: 左 右 (_____), 足: 左 右 (_____)

趾 MTP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), _____ 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 左 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), PIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____), DIP 右 I ② ③ ④ ⑤ V (_____)

15. 検査成績：この項目以外の検査項目については空欄に記入下さい。また、a, b, c, の時期には正常で、他の時期に異常を呈したものはd項に記入下さい。

検査項目	a	b	c	d	検査項目	a	b	c	d
	初診時	診断確定時	現在または最終検査時			初診時	診断確定時	現在または最終検査時	
	昭和年月日	昭和年月日	昭和年月日	昭和年月日		昭和年月日	昭和年月日	昭和年月日	昭和年月日
血色素					Ig G (mg/dl)				
赤血球数(×10 ⁴)					Ig A (mg/dl)				
白血球数					Ig M (mg/dl)				
好酸球(%)					補体 C ₃				
桿状核(%)					補体 C ₄				
リンパ球(%)					抗核抗体				
血小板数(×10 ⁴)					抗DNA抗体 (LEテスト)				
尿	蛋白				G O T				
	糖				G P T				
	沈渣				Al - P				
血沈(1h/2h)				L D H					
C R P				B U N					
A S O				総コレステロール					
R A test				Ca					
Waler Rose				P					
血清蛋白(g/dl)									
r -gl (%)									

16. 治療

	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
薬物療法	薬剤名									
	使用量									
	薬剤名									
	使用量									
法	薬剤名									
	使用量									
副作用										
他の治療										

17. 現在または最終診察時の進行度(Stage)と機能障害(Class)の分類：該当項を○で囲んで下さい。死亡の際は死因を記入下さい。

進行度(構造変形)の分類

Stage I (早期) ①骨破壊はない(X線) ②骨萎縮は少しあってもよい。

Stage II (中等期) ①骨萎縮がある。軽度の軟骨下の骨破壊があることもないこともある。(X線) 軽度の軟骨破壊はあってもよい。②関節の運動制限はあっても関節変形はない。③近接筋の萎縮がある。④関節外の病変(結節、腱鞘炎など)はあってもよい。

Stage III (高度期) ①骨萎縮の他に軟骨及び骨破壊がある(X線)。②関節変形(垂脱臼、尺側偏位、過伸展など)がある。線維性あるいは骨性強直はない。③広範囲の筋萎縮がある。④関節外病変(結節、腱鞘炎など)はあってもよい。

Stage IV (末期) ①線維性あるいは骨性強直。②Stage IIIの基準

機能障害の分類

Class 1. 健康人と同様で、まったく完全である。

Class 2. 少数関節に運動制限はあっても、普通の活動ができる。

Class 3. 普通の作業や身のまわりの自用ができないか、はなはだ困難である。

Class 4. 身のまわりの自用も殆んどできないで、病床上に寝たきりか、もっぱら歩行車を利用しなければならないほど高度である。

死亡：死因

表9である。膝関節が圧倒的に多い。

次に、侵される関節の部位では、どこか多いかみたものが表10である。これは、左右の足関節が侵されているも、足関節1例として数え、部位に重点をおいて、調査

した。

関節症状の程度で、部位別頻度をみたのが表11、表12、表13である。いづれも膝、足、手関節が高頻度であった(検査所見については来年度報告する)。

表 4

〈初発症状〉

位	単 独			位	他の症状と合わせて		
	症 状	例 数	%(268例中)		症 状	例 数	%(268例中)
1	発 熱	31	11.6	1	関 節 痛	174	64.9
2	関 節 痛	17	6.3	2	発 熱	167	62.3
3	関 節 腫 張	10	3.7	3	関 節 腫 張	103	38.4
4	発 疹	3	1.1	4	発 疹	80	29.9
5	虹 彩 炎	1	0.4	5	関 節 発 赤	33	12.3
				6	朝のこわばり	29	10.8
				7	心 外 膜 炎	5	1.9
そ の 他		1	0.4	そ の 他		25	9.3
例 な し	関節発赤 心外膜炎 心筋炎 朝のこわばり			例 な し	心筋炎 虹彩炎		

表 5

〈臨床症状〉 a. 初診時

位	単 独			位	他の症状と合わせて		
	症 状	例 数	%(207例中)		症 状	例 数	%(207例中)
1	発 熱	36	17.4	1	発 熱	159	76.8
2	朝のこわばり	12	5.8	2	発 疹	92	44.4
3	発 疹	3	1.5	3	食 欲 不 振	63	30.4
4	易 疲 労 性	2	1.0	4	易 疲 労 性	62	30.0
5	心 外 膜 炎	1	0.5	5	朝のこわばり	51	24.6
6	皮 下 結 節	1	0.5	6	リンパ節腫大	38	18.4
7	リンパ節腫大	1	0.5	7	肝 腫 大	31	15.0
				8	筋 萎 縮	17	8.2
例 な し	虹彩炎 心筋炎 筋萎縮			9	皮 下 結 節	10	4.8
	腱鞘炎 肝腫大 脾腫大			10	脾 腫 大	8	3.9
	胸膜炎 腹膜炎 食欲不振			11	心 外 膜 炎	7	3.4
				12	胸 膜 炎	6	2.9
そ の 他		13	6.3	13	虹 彩 炎	5	2.4
				14	腱 鞘 炎	5	2.4
症 状	関節腫張 関節痛 関節発赤			15	心 筋 炎	3	1.4
	疼 痛 熱 感 ブドウ膜炎			16	腹 膜 炎	2	1.0
	関節症状			そ の 他		55	26.6

表 6

b. 診断確定時

位	単 独			位	他の症状と合わせて			
	症 状	例 数	%(208例中)		症 状	例 数	%(208例中)	
1	発 熱	18	8.7	1	発 熱	148	71.2	
2	朝のこわばり	14	6.7	2	発 疹	87	41.8	
3	リンパ節腫大	2	1.0	3	朝のこわばり	70	33.7	
4	皮下結節	1	0.5	4	食 欲 不 振	63	30.3	
5	肝 腫 大	1	0.5	5	易 疲 労 性	58	27.9	
6	易 疲 労 性	1	0.5	6	リンパ節腫大	24	11.5	
例 な し	発 疹	虹彩炎	心外膜炎	7	肝 腫 大	22	10.6	
	心筋炎	筋萎縮	腱鞘炎	8	心 外 膜 炎	15	7.2	
	脾腫大	胸膜炎	腹膜炎	9	筋 萎 縮	12	5.8	
	食欲不振			10	皮 下 結 節	12	5.8	
				11	腱 鞘 炎	10	4.8	
				12	脾 腫 大	9	4.3	
その他のみ			9	4.3	13	虹 彩 炎	6	2.9
症 状	関節痛	関節腫張	疼 痛	14	心 筋 炎	6	2.9	
	関節症状	熱 感	圧 痛	15	胸 膜 炎	5	2.4	
				16	腹 膜 炎	3	1.4	
				そ の 他	51	24.5		

表 7

c. 現症または最終診察時

位	単 独			位	他の症状と合わせて			
	症 状	例 数	%(233例中)		症 状	例 数	%(233例中)	
1	朝のこわばり	21	9.0	1	朝のこわばり	31	13.3	
2	発 熱	9	3.9	2	発 熱	28	12.0	
3	発 疹	7	3.0	3	易 疲 労 性	28	12.0	
4	虹 彩 炎	2	0.9	4	筋 萎 縮	19	8.2	
5	筋 萎 縮	2	0.9	5	発 疹	16	6.9	
6	肝 腫 大	2	0.9	6	食 欲 不 振	16	6.9	
7	易 疲 労 性	2	0.9	7	肝 腫 大	10	4.3	
8	皮下結節	1	0.4	8	腱 鞘 炎	7	3.0	
9	リンパ節腫大	1	0.4	9	脾 腫 大	6	2.6	
例 な し	心外膜炎	心筋炎	腱鞘炎	脾腫大	10	心 筋 炎	5	2.1
	胸膜炎	腹膜炎	食欲不振	11	リンパ節腫大	5	2.1	
その他のみ			18	7.7	12	心 外 膜 炎	4	1.7
症 状	関節腫張	鼻出血	関節痛	手腫張	13	皮 下 結 節	4	1.7
	腰痛	熱感	運動制限	pulsus parudosus	14	胸 膜 炎	2	0.9
	右肘関節屈曲制限	膝関節の伸展障害軽度			15	虹 彩 炎	1	0.4
					16	腹 膜 炎	1	0.4
				そ の 他	21	9.0		

表 8 関 節 症 状

(1) 侵襲関節数

時 侵襲関節	初 診 時		診 断 確 定 時		現在または最終診察時	
	罹患例数	%(217例中)	罹患例数	%(188例中)	罹患例数	%(141例中)
1	33	15.2	25	13.3	31	22.0
2	42	19.4	35	18.6	32	22.7
3	26	12.0	27	14.3	14	9.9
4	40	18.4	29	15.4	19	13.5
5	18	8.3	11	5.8	5	3.5
6	14	6.4	11	5.8	8	5.7
7	5	2.3	5	2.6	4	2.9
8	13	6.0	15	8.0	9	6.4
9	4	1.8	3	1.6	2	1.4
10	9	4.1	14	7.4	4	2.8
11	1	0.4	0	0	2	1.4
12	2	0.9	1	0.5	1	0.7
13	0	0	0	0	1	0.7
14	3	1.4	2	1.0	0	0
15 以上	7	3.2	10	5.3	9	6.4
0 または無記入	58	21.1	87	31.6	134	48.7

表 9

(2) 単関節炎の部位頻度

順位	初 診 時			診 断 確 定 時			現在または最終診察時		
	部 位	罹患例数	%(33例中)	部 位	罹患例数	%(25例中)	部 位	罹患例数	%(31例中)
1	膝	11	33.3	膝	11	44.0	膝	10	32.3
2	手	7	21.2	足	5	20.0	手	7	22.6
3	足	6	18.2	頸 椎	3	12.0	足	5	16.1
4	肘	4	12.1	手	2	8.0	指 PIP	4	12.9
5	頸 椎	2	6.1						
1例のみの 関節名称	肩・指 PIP・股			肘・指 MCP・股・趾 MTP			頸椎・肩・肘・指 DIP・趾 PIP		

表 10

(3) 全侵襲関節部位頻度

順位	初 診 時			診 断 確 定 時			現在または最終診察時		
	部 位	罹患例数	% (217例中)	部 位	罹患例数	% (188例中)	部 位	罹患例数	% (141例中)
1	膝	122	56.2	膝	119	63.3	膝	75	53.2
2	足	89	45.2	足	78	41.5	足	74	52.5
3	手	95	43.8	手	75	40.0	手	63	44.7
4	肘	61	28.1	肘	50	26.6	肘	36	25.5
5	指 PIP	41	18.9	指 PIP	38	20.2	指 PIP	29	20.6
6	指 MCP	34	15.7	頸 椎	28	14.9	指 MCP	28	19.9
7	頸 椎	29	13.4	肩	25	13.3	肩	20	14.2
8	肩	26	12.0	股	25	13.3	頸 椎	20	14.2
9	股	24	11.0	指 MCP	23	12.2	指 DIP	18	12.8
10	指 DIP	19	8.7	指 DIP	21	11.2	股	15	10.6
11	趾 MTP	12	5.5	趾 MTP	12	6.4	趾 PIP	9	6.4
12	趾 PIP	11	5.1	趾 PIP	10	5.3	趾 DIP	6	4.2
13	趾 DIP	6	2.8	趾 DIP	6	3.2	趾 MTP	5	3.5
14	側頭顎	1	0.5	側頭顎	4	2.1	側頭顎	4	2.8

表 11

(4) 関節症状（一項のみ）のある関節の部位頻度

順位	初 診 時			診 断 確 定 時			現在または最終診察時		
	部 位	罹患例数	% (315例中)	部 位	罹患例数	% (310例中)	部 位	罹患例数	% (226例中)
1	膝	62	19.7	膝	63	20.3	足	51	22.6
2	手	52	16.5	足	43	13.9	膝	50	22.1
3	足	45	14.3	肘	37	11.9	手	33	14.6
4	肘	38	12.1	手	37	11.9	肘	18	8.0
5	頸 椎	20	6.3	頸 椎	23	7.4	頸 椎	15	6.6
6	指 PIP	19	6.0	指 PIP	22	7.1	指 PIP	15	6.6
7	指 MCP	19	6.0	肩	18	5.8	指 MCP	13	5.7
8	肩	17	5.4	股	18	5.8	肩	10	4.4
9	股	17	5.4	指 MCP	14	4.5	指 DIP	8	3.5
10	指 DIP	9	2.9	指 DIP	12	3.9	股	6	2.6
11	趾 PIP	8	2.5	趾 MTP	8	2.6	趾 DIP	3	1.3
12	趾 MTP	6	1.9	趾 PIP	8	2.6	趾 MTP	2	0.9
13	趾 DIP	3	0.9	趾 DIP	4	1.3	趾 PIP	2	0.9
14	側頭顎	0	0	側頭顎	3	1.0	側頭顎	2	0

表 12

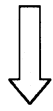
(5) 2項以上の関節症状のある関節の部位頻度

時 順位	初 診 時			診 断 確 定 時			現在または最終診察時		
	部 位	罹患例数	% (196例中)	部 位	罹患例数	% (187例中)	部 位	罹患例数	% (103例中)
1	膝	50	25.5	膝	52	27.8	足	16	15.5
2	足	46	23.5	足	42	22.5	手	16	15.5
3	手	36	18.4	手	35	18.7	膝	12	11.7
4	肘	17	8.7	指PIP	13	7.0	指MCP	10	9.7
5	指PIP	14	7.1	肘	12	6.4	指PIP	9	8.7
6	頸椎	7	3.6	指MCP	7	3.7	指DIP	9	8.7
7	指MCP	7	3.6	指DIP	7	3.7	肘	8	7.8
8	指DIP	6	3.1	肩	6	3.2	肩	5	4.9
9	肩	5	2.6	股	6	3.2	趾PIP	5	4.9
10	股	3	1.5	頸椎	4	2.1	頸椎	3	2.9
11	趾MTP	3	1.5	趾MTP	2	1.1	股	3	2.9
12	趾PIP	1	0.5	側頭顎	1	0.5	側頭顎	3	2.9
13	趾DIP	1	0.5	趾PIP	0	0	趾MTP	2	1.9
14	側頭顎	0	0	趾DIP	0	0	趾DIP	2	1.9

表 13

(6) 拘縮, 強直のある関節の部位頻度

時 順位	初 診 時			診 断 確 定 時			現在または最終診察時		
	部 位	罹患例数	% (68例中)	部 位	罹患例数	% (27例中)	部 位	罹患例数	% (73例中)
1	膝	10	14.7	膝	4	14.8	手	14	19.2
2	指MCP	8	11.8	足	3	11.1	膝	13	17.8
3	指PIP	8	11.8	手	3	11.1	肘	10	13.7
4	足	7	10.3	指PIP	3	11.1	足	7	9.6
5	手	7	10.3	指MCP	2	7.4	股	6	8.2
6	肘	6	8.8	指DIP	2	7.4	肩	5	6.8
7	肩	4	5.9	趾PIP	2	7.4	指MCP	5	6.8
8	股	4	5.9	趾MTP	2	7.4	指PIP	5	6.8
9	指DIP	4	5.9	趾DIP	2	7.4	頸椎	2	2.7
10	趾MTP	3	4.4	肩	1	3.7	趾PIP	2	2.7
11	頸椎	2	2.9	肘	1	3.7	指DIP	1	1.4
12	趾PIP	2	2.9	股	1	3.7	趾MIP	1	1.4
13	趾DIP	2	2.9	頸椎	1	3.7	趾DIP	1	1.4
14	側頭顎	1	1.5	側頭顎	0	0	側頭顎	1	1.4



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



今年度は、昨年度の一次調査し、患児が1人以上いた病院へ二次調査を依頼した。一次調査及び二次調査で解答のあった病院は表1の如くであった。

.二次調査方法

一次調査で得られた211施設に表2,表3(裏)の用紙を患児1人につき1校宛送り,回答を求めた。その結果101施設(47.9%)より解答が得られ,275名の患児のリストが集った。